

# 日本語と中国語の前置き表現に関する一考察

## ——話題転換を中心に——

牛晶（筑波大学大学院生・中国吉林師範大学外国語学院講師）

### 要 旨

本稿は、日本語と中国語の前置き表現の対応関係を明らかにするための手がかりの一つとして、語彙レベルから「早速ですが」、「（これは）余談ですが」、「急に話は変わりますが」という話題転換に使われる前置き表現に焦点を当て、中国語を母語とする日本語学習者が前置き表現をどのように理解しているのかという点について考察した。その結果、「早速ですが」と“闲话少叙（余談はほどほどにして）”、「これは余談ですが」と“说句题外话（関係ない話をしますが）”、「急に話は変わりますが」と“话说回来（話が戻りますが）”が、それぞれ機能的に対応関係にあることを明らかにした。

**キーワード:** 前置き表現、話題転換、談話標識、対応関係

### 1. はじめに

前置き表現は、日本語母語話者同士の会話の中で頻繁に用いられる。しかし、非母語話者同士の会話のような異文化接触の場面では、誤解やすれ違いなどによるミス・コミュニケーションが常に起こりうると指摘されている（井出・平賀 2005、久米・長谷川 2007）。なぜこのようなミス・コミュニケーションが発生するのだろうか。

本稿は、日本語の前置き表現と中国語の“话语标记（談話標識）”という類似概念の対応関係に着目し、日本語の前置き表現と中国語の表現形式の分析を通して、中国語を母語とする日本語学習者が日本語の前置き表現をどのように理解しているのかという点について分析し、明らかにする。

### 2. 先行研究

日本語の前置き表現に関する研究は 1970 年代から始まり、近年盛んに行われている。前置き表現については、メタ言語研究、接続助詞「が」「けど」の研究、ポライトネス研究、言語行動に関する研究などにおいて、日本語教育、文化、言語対照などさまざまな観点から分析されてきた。前置き表現の機能に関する各学者の見解はおおむね一致している。すなわち、前置きをすることによって、聞き手に対する配慮を表し、会話を順調に進め、聞き手と良好な関係を維持し、発展させるというものである。

#### 2.1. 前置き表現の定義

杉戸（1983）は、日本語の言語行動について、「言語行動の主体」「言語行動の機能の種類」等の 12 の要素に分け、次に来る主節で示される言語行動を注釈するのがメタ言語行動であり、主節に対する「前置き」となっている。杉戸は機能に「前置き」という言い方を用いているが、詳しく定義していない。

大塚（1999）は、テレビ討論で反対意見を表明する場合に用いられる前置き表現について考察し、前置き表現をポライトネスの観点から「本題に入る前に現われ、コミュニケーションを円滑に進めるための戦略として使用される」表現と定義している。具体的には、「あの、私見ですけども」、「ちょっと失礼ですが」等の表現を挙げている。

山岡・牧原・小野（2010）は日本語教科書で取り上げられている典型的な勧誘の前置き表現は、「よろしければ」、「時間があれば」、「今度」などであると指摘している。

陳（2007）は、意味と機能の面から前置き表現を定義している。

本稿では、上述の先行研究を踏まえ、特に前置き表現の機能と出現場所を明確にしている大塚（1999）、陳（2007）の定義を参考にして、「前置き表現」を次のように定義する。

話者が自らの発話内容を聞き手により明確にわかりやすく伝え、話をスムーズに展開させるために行われる発話を「前置き」とし、「前置き」の目的達成に最も直接的に迫る部分を「前置き表現」とする。

## 2.2. 前置き表現の分類

表1は、陳（2010）と王（2010）における前置き表現の分類をまとめたものである。

表1 前置き表現の分類

先行研究	分類の基準	分類の内容
陳（2010）	構造	①単純型 ②複合型
	談話機能	①対人配慮型 ②伝達性配慮型
王（2010）	表現形式	①「～が」、②「～けど」、③「～と」、④「～ば」、⑤「～たら」、⑥「～ように」、⑦「～とおり」
	機能	①お詫び式、②感謝式、③理解式、④共感式、⑤謙虚式、⑥減量式、⑦仮定式、⑧象徴性同意式、⑨請求式、⑩理由説明式、⑪引用式、⑫話題提示式、⑬様態提示式

陳（2010）は前置き表現を大まかに分類している。次の節では、王（2010）の13の機能分類を参考にし、日本語の前置き表現と中国語の“话语标记（談話標識）”の対照研究を行う。

## 2.3. 日本語の前置き表現と中国語“前置型话语标记（前置型談話標識）”の対照

本節では、日本語の前置き表現に相当する中国語の概念を抽出してみたい。陳（2007）は、日本語の前置き表現に相当する中国語の表現を「前置表現」、「前置語列」と呼び、王（2010）は“前置表达（前置表達）”と呼んでいる。中国語の“话语标记（談話標識）”は機能面からみると、部分的に前置き表現と一致している。本稿では、文頭に位置する“话语标记（談話標識）”を“前置型话语标记（前置型談話標識）”と呼ぶことにする。

孫・方（2011）は、中国語の談話標識に17種類の語用的機能を認めている。王（2010）、陳（2011）は前置き表現に相当する中国語の概念について言及していないが、本稿では、王（2010）、孫・方（2011）の研究を参考にし、日本語の前置き表現と“前置型话语标记（前置型談話標識）”の関係を明らかにしたい。以下の表2に、日本語の前置き表現と中国語の前置型談話標識の関係を示す。

表2 「前置き表現」と“前置型话语标记（前置型談話標識）”の機能

日本語の前置き表現 (王 (2010))	中国語の前置型談話標識 (孫・方 (2011))
1. お詫び式 例: すみませんが	1. 来源凸显型 (情報源際立たせ型) 例: “据说 (聞くとおころによれば)、据报道 (報道によれば)、据称 (言うところによれば)、据.....称 (.....が言うところによれば)、据了解 (消息筋によれば)、据研究 (研究によれば)”
2. 感謝式 例: 大変有難いのですが	2. 言说型 (言説型) ① 坦言型 (席・劉 2008) 例: “开诚布公的讲、坦率的说、说实话 (率直に言うと)、说句心里话 (本音を言えば)” 等。 ② 深究型 例: “细而言之、仔细言之、细言之、深究起来 (詳しく言えば/突き詰めて言えば)” 等。 ③ 常理标记词语 例: “按照常理说、一般而言、一般道理讲 (一般的に言えば/常識に照らして言えば)” 等。
3. 理解式 例: 君の気持ちは分かるけど	3. 总结型 (まとめ型) 例: “好了、得了、算了 (もういい)、由此看来 (この点から見れば)、众所周知 (周知のように)、总之一句话 (一言で言えば)” 等。
4. 共感式 例: 行きたいけど.....	4. 序数型 (序数型) 例: “一是... 二是...、一方面... 一方面...、一来... 二来... (一つは...、もう一つは...)、首先... 其次... 再次... 最后... (まず...、次に...、さらに...、最後に...)” 等。
5. 謙虚式 例: むさ苦しいところですが	5. 主观评价型 (主観評価型) “更为可贵的是 (さらに称賛すべきことに)、万幸的是 (たいへん幸いなことに)、令人忧心的是 (心配なことに) (董 (2007)、太痛苦了、令人遗憾的是 (残念なことに) (席・刘 (2008))”
6. 減量式 例: 自慢ではないが.....	6. 阐发型 (主位、客位と他位の総称) “以我之见、以我之见 (私見だが)、照我说、在我看来、以我看 (私から見ると)、就我个人而言、个人认为 (個人的には)、笔者认为 (筆者の考えでは)、不是我说你 (あなたを責めるわけではありませんが)”
7. 仮定式 例: 私の記憶に間違いがなかったら.....	7. 话题组织型 (話題組織型) ① 转换话题型 (話題転換型) 例: “另外 (それに)、换言之、换句话说 (換言すれば)、话是这么说 (それはそうだが)、想起来了 (思い出した)、话又说回来 (話は戻るが)” 等。 ② 话题跟进型 (話題引継ぎ型) 例: “就是、也就是 (すなわち)、还有 (それに)、还有就是 (さらに)、然后 (それから)、就是说 (すなわち)、这样一来 (こうすると)、我的意思是 (私が言いたいのは)” ③ 插说补充型 (補足説明型) 例: “打断一下 (話の腰を折りますが)、我插一句、插一下 (一言言わせてください)、要补充的是 (補足ですが)、要解释的是 (説明したいのは)、要说明的是 (説明したいのは)”
8. 象徴性同意式 例: それはそうですが	8. 祈使型 (命令型) 例: “你说实话 (本当のことを言ってください)、你听我说 (私の話を聞いてください)、听着 (聞いてください)、我告诉你 (いいですか)”
9. 請求式 例: ちょっとお願いしたいことがあります	9. 果决型 (決断型) 例: “毋庸讳言 (包み隠さずに言うならば)、毫无疑问 (疑いなく)、无疑 (疑いなく)、众所周知 (周知のように)”

10. 理由説明式 例:ちょっと都合が悪いのですが	10. 断言型 (断言型) 例: “我敢肯定 (確実に言えることは)、不客气的说、毫不客气地说 (遠慮せずに申し上げる)、我敢说、斗胆问一句 (敢えて、聞きますが)” 等
11. 引用式 例:先ほどおっしゃったように	11. 对比 (对比) 例: “但是 (しかし)、可是 (でも)、不过 (但し)”
12. 話題提示式 例:これはいつも思うんですけど	12. 澄清事实型 (事実提示型) 例: “事实上、实际上 (実際には)”
13. 様態提示式 例:簡単に言うと	13. 因果型 (因果型) 例: “所以说 (だから)、看来、这样看来 (こう見たら)、这么说来 (こう話したら)”
	15. 举例型 (例示型) 例: “例如说 (例えば)、比方说 (例えば)、打个比方说 (例えて言えば)、譬如说 (例えば)、特别是 (特に)”
	16. 礼貌型 (礼儀型) 例: “对不起、不好意思 (すみません)、叨扰了、打扰了 (お邪魔しました)、劳驾 (すみません)”
	17. 延迟技巧型 (言い淀み型) 例: “这个... 这个...、那个 (あの)... 那个 (あの)...、呃 (ええと)... 呃 (ええと)...” 等。

表 2 に基づき、日本語前置き表現に対応する中国語の“话语标记 (談話標識)”を日本語と対照して表 3 に示す。

表 3 前置き表現と“话语标记 (談話標識)”の具体例

日本語の前置き表現	中国語“话语标记” (談話標識)
<b>話題提示式</b> 例:「 <u>これから</u> のことなんだけど、吉ちゃんは何かやりたいこととか行きたいところとかある？」	<b>转换话题型 (話題転換型)</b> “另外 (ところで)”、“换言之 (換言すると)”、“换句话说 (話を変えよう)”、“顺便说一下 (ちなみに)”、“话是这么说 (それはそうだけど)”、“想起来了 (思い出した)”、“话又说回来 (話は戻るけど)”等。
<b>お詫び式</b> 例:「 <u>恐れ入りますが</u> 、その窓を開けてくださいませんか」	<b>礼貌型 (礼儀型)</b> 例: “对不起 (すみません)”、“不好意思 (すみません)”、“劳驾 (すみません)”、“打扰了/打搅了/叨扰了 (お邪魔しました)”

日本語の前置き表現は、中国語の「話題転換型」及び「礼儀性」と対応する。表 2 に示したように、左の 12. 話題提示式と右の 7. “话题组织型 (話題組織型)” の①“转换话题型 (話題転換型)”は機能が同じである。左の 1. お詫び式と右の 16. “礼貌性 (礼儀性)”も同じ機能を持ち、表現形式もほぼ一致している。本稿は、同じ機能をもつ異なる表現形式を研究対象とし、話題転換型を中心に考察する。以下では、まず「話題転換型」から考察を行う。具体的には、中国語を母語とする日本語学習者が日本語の前置き表現をいかに理解し、表現するかという点について検討する。

#### 2.4. 話題転換場面での前置き表現に関する先行研究

話題転換場面における会話分析を行った研究には、木暮 (2002)、山本 (2003)、楊 (2005)、田中・崔 (2014) 等がある。分類方法や名称、定義はさまざまであるものの、いずれも談話標識を含む話題開始ストラテジーについて分析している。

木暮 (2002) は日本語母語話者と日本語学習者が使用した話題転換を示す表現について分析し、母語話者の方が話題転換表現の使用率が高いことを示した。山本 (2003) は、テ

レビのトーク番組を分析し、話題転換における談話標識の生起数が最も多いという結果を報告している。楊（2005）と田中・崔（2014）は、日本語と中国語を対照した研究である。田中・崔（2014）は、楊の研究を発展させ、初対面の母語話者同士の会話を両言語各 24 組分収集、分析した。その結果、日本語は中国語に比べて、談話標識と話題を強調する表現の使用回数が多く、話題のフレームの提示とストラテジーの使用が少ないことを明らかにした。この研究では、日本語会話の話題転換時における談話標識の重要性が示唆されている。これらの研究は、話題転換場面における談話標識について考察しているが、日本語の前置き表現と中国語の類似概念の対応関係を分析した研究は管見の限り見られない。

### 3. 調査概要

陳（2007）の定義は、前置き表現の位置、機能等が包括的に論じられているため、本稿では、以下に示す陳（2007）の 4 つの基準に基づいて考察をおこなう。

- 1) 前置き表現は何らかの配慮によって用いられ、主要な言語内容に先立つ。
- 2) ディスコースにおいて、その次にくる主要な言語内容を導入するという機能が基本的な機能である。
- 3) 前置き表現には、次に来る主要な言語内容に対する判断（態度）や認識といった、話し手の主観が含まれている。
- 4) 前置き表現の有無によって、次に来る主要な言語内容の命題・事柄の成り立ちに支障が起きることはない。

本稿で言う話題転換とは、話者が会話のターンを取るために先行話題に割り込むことである。話し手は、前置き表現を用いることにより、話の内容とトピックを聞き手に効果的に伝え、会話のターンを取って、談話の方向を明確に定めることができる。

次の（1）から（3）は、話題転換場面で用いられた前置き表現の用例である。これらの前置き表現は、話題転換場面でもっとも多く使用される。

- （1）「早速ですが、本題に入ります」（王（2010））
- （2）「これは余談ですが、これまで実験材料となった何十万尾の金魚はどうなったのでしょうか」（王（2010））
- （3）「急に話は変わりますが、今夜は月が綺麗ですね」（王（2010））

本稿はこの 3 つの話題転換の前置き表現に焦点を当てて検討する。

（1）の話者は、前置き表現を用いて本題に入ることを示唆している。（2）は「余談になりますが…」と言い換えることもできる。話者はこれまでの話とは関係ない話であると述べながらも、実際には新しい話題を導入している。（3）の話者は、前置き表現を用いて話題を提示し、新しい話題に転換している。このようにすることで唐突感を避け、談話の方向性を決めているのである。

この 3 つの文を中国語母語話者の日本語学習者（中国国内の K 大学日本語専攻の 4 年生 50 人）に中国語に翻訳してもらった。次に、翻訳された中国語文を北京大学中国語言学研究中心コーパス（CCL）<sup>(1)</sup> 検索し、調査結果を以下の表 4 にまとめた。

表 4 話題転換場面における前置き表現の中国語訳

前置き表現	中国語訳の種類数	中国語の訳文
①早速ですが、	9 種類	A “闲话少叙（余談はほどほどにして）” (14) <sup>(2)</sup> ; B “那/那么/那就（それでは）” (11); C “ø” (10); D “首先（まず）” (6); E “抓紧时间（時間をしっかりつかんで）” (4); F “直接进入主题/言归正传（直接本題に入ります）” (2); G “那么现在（では、今から）” (1); H “少说废话（無駄話はほどほどにして）” (1); I “×”（誤訳：“速度太快（スピードが速すぎる）” (1)
②これは余談ですが、	6 種類	A “说个题外话（関係ない話をしますが）” (18); B “我附带问问（ついでに聞きますが）” (12); C “闲聊一下（ちょっと無駄話になります）” (8); D “这可能不太重要（これは重要ではないかもしれませんが）” (4); E “ø” (4); F “×（誤訳：“闲聊一下啊（直訳：ちょっと無駄話をしましょう）”と“开个玩笑（ちょっと冗談を言います）” (4)
③話は変わりますが、	5 種類	A “话说回来（話が戻りますが）” (16); B “话说（“话说回来”の省略表現）” (14); C “转换个话题（話がかわりますが）” (10); D “说点不相关的话（少し関係ない話をしますが）” (2) E “×（誤訳：“话改变了（※中国語として不自然な表現）” (8)

#### 4. 調査結果

(1) の「早速ですが」は、50 人中 14 人が「闲话少叙」あるいは「闲话少说」（直訳：余談はほどほどにして）と訳している。他には、多い順に「直接进入正题（直訳：直接本題に入ります）」、「请大家抓紧时间（直訳：みなさん、時間をしっかりつかんでください）」、「少说废话（直訳：無駄話はほどほどにして）」などがある。これらの訳文をそれぞれ CCL コーパスで検索したところ、「闲话少叙（直訳：余談はほどほどにして）」が前置き表現として用いられている例は 13 例あった。結果としては、「早速ですが」と「闲话少叙（直訳：余談はほどほどにして）」が機能的に対応関係にあることがわかった。

(2) 「これは余談ですが」誤訳文である「闲聊一下啊（直訳：ちょっと無駄話をしましょう）」と「开个玩笑（直訳：ちょっと冗談を言います）」を除いた「附带提一下（直訳：ちなみに）」、「说句题外话（関係ない話をしますが）」、「问句闲话（関係ないことを聞きますが）」、「我只是随便问问（ちょっとお尋ねするだけです）」、「我多余问一下（直訳：もう少し聞いてみたいんですが）」をそれぞれ CCL コーパスで検索した結果、「说句题外话（直訳：関係ない話をしますが）」が前置き表現として用いられている例は 4 例あり、「これは余談ですが」と機能的に対応関係にあることがわかった。

(3) の「急に話は変わりますが」は、「突然转变了话题」、「换个话题」、「转换个话题」等日本語を直訳した文が多く見られた。他には「话说回来（直訳：話が戻りますが）」、「话说（“话说回来”の省略表現）」、「说个题外话（直訳：関係ない話をしますが）」という訳文が多かった。

CCL コーパスには、「话说回来（直訳：話が戻るけど）」という文が多く、279 例存在する。「急に話は変わりますが」は「话说回来」及び「说句题外话（直訳：関係ない話をしますが）」

とも対応関係にあることがわかった。

以上の考察から、「早速ですが」と“闲话少叙（直訳：余談はほどほどにして）”、「これは余談ですが」と“说句题外话（直訳：関係ない話をしますが）”、「急に話は変わりますが」と“话说回来（直訳：話が戻りますが）”が機能的に対応関係にあることがわかった。

## 5. 考察

話題転換における前置き表現と“前置型话语标记（前置型談話標識）”の共通点は相手に配慮し、会話をスムーズに進めるために使用されるという点である。相違点について言うと、日本語では、「早速ですが」、「これは余談ですが」、「急に話は変わりますが」のように、今の会話の状態を描写する表現が多いが、中国語では“闲话少叙（直訳：余談はほどほどにして）”、“说句题外话（直訳：関係ない話をしましょう）”、“话说回来（直訳：話が戻りますが）”のように、“说（話す）”という動作を中心にし、動作主は動作指示で話題の転換を示している。

日本語に主語がないという主張について、これまで多くの議論がなされてきている。話し手が場に埋もれていて内在的視点を持つと考えるので、話し手が場の中にいるので自明である。前置き表現に見られる日中両言語の相違は、日本語では内在的視点を取る場合が多く、中国語では外在的視点を取る場合が多いことの反映であると考えられる。

## 6. おわりに

以上の分析より、中国語を母語とする日本語学習者の前置き表現の誤用は不使用によるものではなく、表現形式の相違に起因するものであることがわかった。話題転換における前置き表現の誤用の原因を分析するために、日本語の前置き表現と中国語の“前置型话语标记（前置型談話標識）”との機能的対応関係の分析を通して、日本語の前置き表現に対応する中国語の概念を明らかにした。

また、先行研究における日本語の前置き表現を中国語母語話者である学習者に翻訳させ、その訳文を CCL コーパスで検索した。その結果、「早速ですが」と“闲话少叙（直訳：余談はほどほどにして）”、「これは余談ですが」と“说句题外话（直訳：関係ない話をしますが）”、「急に話は変わりますが」と“话说回来”及び“说句题外话（直訳：関係ない話をしますが）”が対応関係にあることが明らかになった。

中国語は、話題を転換する場合に、前置き表現を使わないというわけではない。話題転換に用いる表現形式が日本語とは異なっているのである。中国語を母語とする学習者に両言語における前置き表現の対応関係を把握させることができれば、前置き表現の誤用を減らすことができると考えられる。

今後は、上記のような前置き表現の対応関係について、語用論と異文化理解の観点から分析し、究明していきたい。

## 注

- (1) 北京大学中国語言学研究中心コーパス（Center for Chinese Linguistics PKU）は、現代中国語の語数にして約 581,794,456 語を収録しているオンライン検索システムである。

(2) ( ) の数字は人数を示す。( ) の日本語訳文は直訳である。

## 参考文献

- 井出祥子・平賀正子 (2005) 『異文化とコミュニケーション』 ひつじ書房
- 王慧鑫 (2010) 『日语会话中的前置表达研究』 黒竜江大学東語学院修士学位請求論文 pp. 12-36
- 大塚容子 (1999) 「テレビ討論における前置き表現―「ポライトネス」の観点から―」『岐阜聖徳学園大学紀要』 37, pp. 117-131.
- 久米昭元・長谷川典子 (2007) 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション―誤解・失敗・すれ違い―』 有斐閣選書
- 木暮律子 (2002) 「日本語母語話者と日本語学習者の話題転換表現の使用について」『第二言語としての日本語の習得研究』 5, pp. 5-23
- 杉戸清樹 (1983) 「待遇表現としての言語行動:注釈という視点」『日本語学』 2 (7) , pp. 32-42
- 席建国・刘冰 (2008) 「语用标记语功能认知研究」『浙江大学学报(人文社会科学版)』 4, pp. 190-199
- 孙利萍・方清明 (2011) 「汉语话语标记的类型及功能研究综观」『汉语学习』 6, pp. 76-84
- 田中奈緒美・崔沫舒 (2014) 「話題転換ストラテジーの使用傾向から見る話題転換方法の日中比較」『中国語話者のための日本語教育研究』 5, pp. 47-61
- 陳臻渝 (2007) 「日本語会話における前置き表現―配慮の表現方法によって―」『言語文化学研究言語情報編』 2, pp. 99-115. 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科
- ―― (2010) 『現代日本語の前置き表現の記述的研究』 大阪府立大学人間社会学研究科博士学位請求論文
- ―― (2011) 「前置き表現に関する日中対照研究―後続情報の内容による分析―」『言語文化学研究(言語情報編)』 6, pp. 17-32, 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科
- 董育宁 (2007) 「新闻评论语篇的语用标记语」『修辞学习』 5, pp. 75-77
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』 明治書院
- 山本綾 (2003) 「話題転換についての一考察―アメリカと日本のテレビのトーク番組を資料として」『えちゅーど』 33, pp. 57-81. お茶の水女子大学大学院英文学会
- 楊虹 (2005) 「中日接触場面の話題転換:中国語母語話者による初対面会話に用いられる話題転換ストラテジー」『言語文化と日本語教育』 30, pp. 31-40

## 用例出典

『北京大学中国語言学研究中心コーパス』

[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/) (最終参照日:2016 年 12 月 31 日)

(牛晶、筑波大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程・中国吉林師範大学外国語学院講師、  
niujing2013@126.com)